Ⅳ-214　高齢者のハンディキャップ者出現率と交通行動特性について

東京都立大学工学部　正員　秋山哲男

１、調査のねらいと調査方法

我国では２１世紀において高齢者の人口比率、絶対数とも世界に例をみない程急速な増加が予想され、しかもハンディキャップ者が多い後期高齢者（75歳以上）がその1/2 を占めるといわれている。高齢者とくにハンディキャップを持つ高齢者の交通対策の基礎として、どのようなハンディキャップ者がどの程度増加するか、またどのような交通需要があるかの実態を知ることは重要な課題である。

本研究の目的は、このハンディキャップに着目して、第一にどのようなハンディキャップ者がどの程度出現するかを年齢別に明らかにし、第二に、ハンディキャップを持つか否かがどのように交通行動（外出頻度、交通手段選択等）に影響をもすかを明らかにすることである。

調査の方法は、浦安市60歳以上の高齢者を対象として郵送によるアンケート調査によった。サンプリングの方法は60歳以上の名簿5990人からランダムサンプリングで1079人を抽出（抽出率18％）し、配布した。その有効回収数381 票、回収率35.7％を得た。

２、加齢とハンディキャップ

分析対象者の一般的属性（年齢構成、性別）は表－１に示したとおりである。

ハンディキャップと関連する７つの指標について各々のハンディキャップ者の出現率と年齢との関連性を求めた。

表－１分析対象者の一般的属性

年齢	人数	%
60-64	121	31
65-74	171	45
75-99	89	24

性別	人数	%
男	174	46
女	205	54

表－２　ハンディキャップ指標と年齢

ハンディキャップ指標	年齢との相関係数
１階段の昇降　できない	0.687
できない＋無理すればできる	0.889
２小走り　できない	0.958
できない＋無理すればできる	0.955
３休まず歩ける時間　10分までしか歩けない	0.667
30分までしか歩けない	0.891
４目が悪くて外出をひかえる	0.667
５耳が悪くて外出をひかえる	0.801
６外出時に杖・介助が必要	0.854
７非健康（病気・健康とはいえない）	0.526

表－２に示した年齢とハンディキャップ者出現率の相関関係は、階段の昇降、小走り、休まず歩ける距離、聴力、要杖・介助の相関係数が 0.8以上で関連性が高い指標と考えられる。階段の昇降困難者割合をさらに詳しく散布図（図－１）によってみると、60歳代は年齢に関係が少なく、階段の昇降が「できない人」、「できない＋無理すればできる人」の出現率はほぼ一定であるが、70歳を越えてから加齢に伴ってハンディキャップ者の出現率は増加する。

３、ハンディキャップと外出頻度

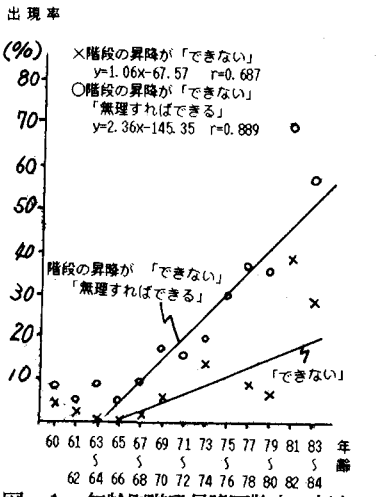
（１）平均トリップ数

一日の平均トリップ数は2.68であり、表－３から年齢別には60-74 歳まではいづれも平均以上であるが、75歳から平均以下に減少する。

次に、ハンディキャップレベル別平均トリップ数を表－４に示したが「階段の昇降ができない」「小走りができない」等ハンディキャップが大きい層の平均トリップ数は著しく低くいことが分かった。

表－３　年齢別平均トリップ数

年齢	人数	トリップ数	年齢	人数	トリップ数
60-64	102	2.98	75-79	34	2.47
65-69	88	2.90	80-84	11	2.36
70-74	49	3.02	85-	2	2.00



図－１　年齢別階段昇降困難者の割合

（２）外出頻度

①ハンディキャップ者の全目的と通院目的の外出頻度

表－５にハンディキャップの有無別に全目的で週３回以上外出する人のうち、通院する人の割合を示した。ハンディキャップを持つ人の通院率は45％持たない人は 9％と、ハンディキャップを持つ人の通院率は高いことが分かった。

②ハンディキャップ有無別・年齢別外出頻度

図－２は、目的別に週３回以上外出する人の割合を示した。ハンディキャップを持たない人の週３回以上の外出する人の割合は、全目的、散歩とも加齢に伴って減少しないが、ハンディキャップを持つ人の場合は加令に伴って減少（特に75歳以上になると著しく減少）する。通院についてはハンディキャップをもつ人が多く加令に伴い75まで一度増加しその後減少する。

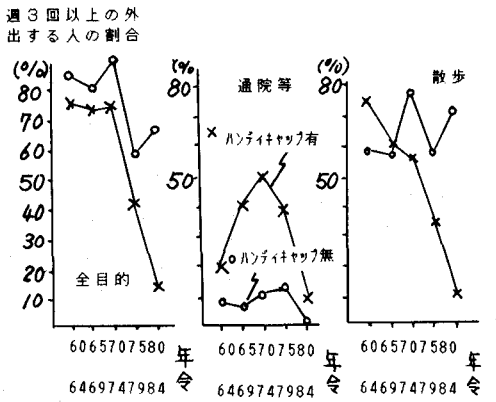
４、ハンディキャップと交通手段選択

①ハンディキャップの有無と主な交通手段利用

ハンディキャップの有無別に交通手段選択を図－３に示した。ハンディキャップを持つ人の主な交通手段は、バス・車（乗客）・タクシーであり、ハンディキャップがない人は地下鉄・車（運転）・自転車の利用が特徴的である。すなわち、ハンディキャップを持つ人は、自転車・車（運転）などはほとんど使わず、代りに、タクシーや車（乗客）の利用が高い。

②年齢別交通手段が使えない層

図－４から車（運転）・自転車は他の手段に比べて使えない層が多い。加齢に伴って、使えない層が増加する交通手段は、自転車・バス・鉄道・タクシーであり、80歳代で使えない層が著しく増加する。



図－２　ハンディキャップ有無別年齢別高頻度外出者の割合

５、まとめ

①高齢者のハンディキャップ者出現率は加齢に伴って増加する。但し、60歳代は出現率と年齢との関連性は少ない。

②トリップ数は75歳以上で減少する。ハンディキャップを持つ人のトリップは少なく、外出の中で通院の占める割合が高く、外出頻度は概加齢に従って減少する。

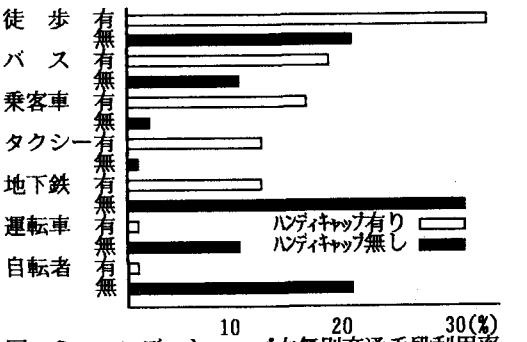
③ハンディキャップのある人の交通手段利用は車（乗客）、タクシー等の利用が多く逆に車（運転）・自転者を利用する人はほとんどいない。

表－４　ハンディキャップレベル別平均トリップ数

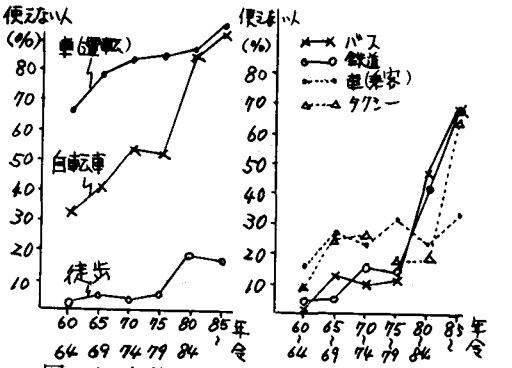
	階段の昇降		小走り	
	人数	トリップ数	人数	トリップ数
できない	5	2.00	30	2.23
無理すればできる	30	2.76	61	2.88
息切れする	93	2.90	42	2.95
楽にできる	144	2.96	143	2.92

表－５　ハンディキャップレベル別平均トリップ数

ハンディキャップ	全目的	通院等	通院の割合
有り	22	10	45%
無し	126	10	9%



図－３　ハンディキャップ有無別交通手段利用率



図－４　年齢別交通手段を使えない人の割合